

## CLOSE UP!



## 病的肥満症に対する 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 ～肥満が手術で治る時代です～

### ● 病的肥満とは

肥満によって生活に支障が出ている人、また、命に関わる病気を持っている人を「病的肥満症」と言います。ひとくちに肥満と言っても、見た目判断する訳ではなく、「BMI」という指数を用いて判断します。BMIの標準値は22～24で、数値が大きくなればなるほど肥満状態にあります。このBMIが35以上になった方は太りすぎと言えるでしょう。

この度、徳島大学病院が四国で初めて腹腔鏡下スリーブ胃切除術の保険適用可能施設として認定されました。今回は、吉川講師にお話を伺います。

### BMIとは

$$\frac{\text{体重 (kg)}}{\text{身長} \times \text{身長 (m)}}$$

身長170cm  
体重70kgの場合

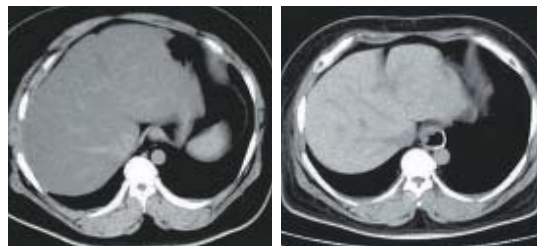
$$70 \div (1.7 \times 1.7) \\ = \text{BMI約}24$$

身長170cm  
体重105kgの場合

$$105 \div (1.7 \times 1.7) \\ = \text{BMI約}36$$

### ● 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術とは

くすりや食事による治療を6ヶ月以上続けても、病的肥満症が改善しない場合で、かつ糖尿病などの合併症を持っている患者さんには、外科的なアプローチで病的肥満症を治療することができます。この度、当院が四国で初めて保険診療の認定施設となった「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術」は、胃の80%ほどを切除し、摂取できる食事の量を強制的に少なくすることによって、肥満症を改善させようとする治療です。胃の切除には腹腔鏡という医療機器を使用し、低侵襲で患者さんの心身への負担を少なくしています。腹腔鏡を挿入するための小さな切開を数カ所に行うだけです。術後の傷跡が開腹手術よりも格段に目立ちにくいことも利点です。術後は3日～1週間ほどで回復し、日常生活が送れるようになります。



脂肪肝の改善例、術前(左)、術後(右)  
術前と術後で肝臓の色が白くなり、脂肪肝が改善していることが分かる。

### 患者さんへ一言

肥満は病気です。合併症が重症になると外科的処置を行えなくなる場合があります。当院で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を受ける場合は、保険診療として取り扱うことができます。肥満症でお悩みの患者さんは、まずはかかりつけ医にご相談の上、当院への受診をご希望ください。

■説明は、  
消化器・移植外科  
吉川 幸造(よしかわ こうぞう)  
講師

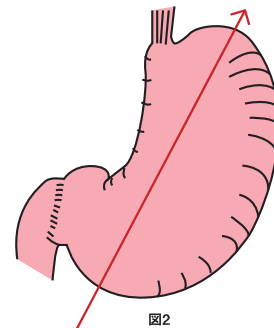
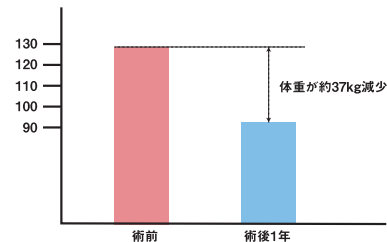


図2



腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を受けた患者の体重推移の一例